

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	DOWAハイテック(株)P棟建設工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県本庄市仁手字本島堤北1188	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 22条地域	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年10月20日
敷地面積	112,244 m ²	作成者	
建築面積	3,862 m ²	確認日	2023年10月25日
延床面積	7,107 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 82% (37.72 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 82% (37.72 kg-CO₂/年・m²)

④上記+: 82% (37.72 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 (スコア=3.0)

Q2 サービス性能 (スコア=3.4)

Q3 室外環境(敷地内) (スコア=2.7)

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー (スコア=3.7)

LR2 資源・マテリアル (スコア=3.9)

LR3 敷地外環境 (スコア=3.3)

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>作業場は天井が高く広い空間にすることで効率よく業務を行えるようにし、外部に隣地境界、道路境界付近に緑地を設けることで、周辺環境に配慮した。また、構内通路と建物の間にも緑地を設けて、敷地内の環境にも配慮した。</p>	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>内部仕上は、ほぼ全面にF☆☆☆☆を使用し、室内の空気環境に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>各所階高を高く確保し、居室の天井高も3m以上とすることで、ゆとりある空間にした。</p>
<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建築物周辺等に死角を作らないよう見通しを良くし防犯性に配慮した。緑地は良好な維持管理が行えるように配慮した樹種選定とした。</p>	<p>LR1 エネルギー</p> <p>建築物のエネルギー性能を向上させるために、主に外皮性能と設備の高効率化に留意して計画した。</p>
<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>断熱材等にフロン、ハロンを使用せず、環境に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地内の緑化や、ライフサイクルCO₂排出率を抑えることで地球温暖化防止に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
DOWAハイテック(株)P棟建設工事(仮称)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境					0.31		-		3.0
1 音環境				2.6	0.15		-		2.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				2.2	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				1.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-		-		
1.3 吸音				3.0	0.20		-		
2 温熱環境				2.6	0.35		-		2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.0	0.25		-		3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.30		-		
1 昼光率				3.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度				3.0	0.15		-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.1	0.25		-		4.1
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.6	0.30		-		
1 換気量		シックハウス基準の1.4倍以上		5.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				-	-		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.4
1 機能性				3.2	0.40		-		3.2
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40		-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高さ3.0m、屋外を眺めることができる窓が設けられている		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース+自動販売機等の設置		5.0	0.33		-		
3 内装計画		パースやBIMモデルによる検討		4.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-		2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.8	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高=3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.09	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
			事務所積載荷重4900N/m ² 、大梁・柱3800N/m ² 、地震2800N/m ²				
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	計画的に確保あり	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.84		4.6	0.20	4.6
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]= 0.69		4.1	0.50	4.1
4 効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器、自動水栓の採用		4.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			高炉セメント 基礎及び地中梁のコンクリート		5.0	0.22	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			陶磁器質タイル(床)、ビニル系床材(床)、OAフロア(床)		5.0	0.22	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体・構造部材と他部材が分別可能。内装材と設備が錯綜しない。		5.0	0.22	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロンの発泡剤を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			概算スコア3.7		3.7	0.33	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1	風害の抑制		-	-	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「ガイドライン」のチェック項目の過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	DOWAハイテック(株)P棟建設工事	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.7	+	3.0	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.7
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.7
＜配慮した内容を記述＞ 河川に挟まれた立地で、敷地外環境への影響は少ない敷地ではあるが、地域の風配図などを調査したうえで建物のボリュームを確認した。 交通負荷抑制については、敷地内に必要台数以上の駐車場を設けるほか、業務車両の待機スペースなどを確保して周辺地域の交通への影響を最小限に抑えるように計画した。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
＜CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア＞			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
＜配慮した内容を記述＞ 駐車場周辺に雨水流出抑制のための浸透施設や緑地を配置することで、生物環境の保全や敷地内温熱環境への役割を期待するとともに、排水処理にはバイオパレット(ピオトープ型浄化施設)を組み入れることにより、生物多様性に配慮し、排水の安全性についても目に見える様にする事で、環境意識を高める効果がある。			

: 入力欄